

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 6 巻第 16 号

第 16 週(4月17 日～ 4月23 日)

発行年月日:平成18年(2006年) 4月28日

発行:滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

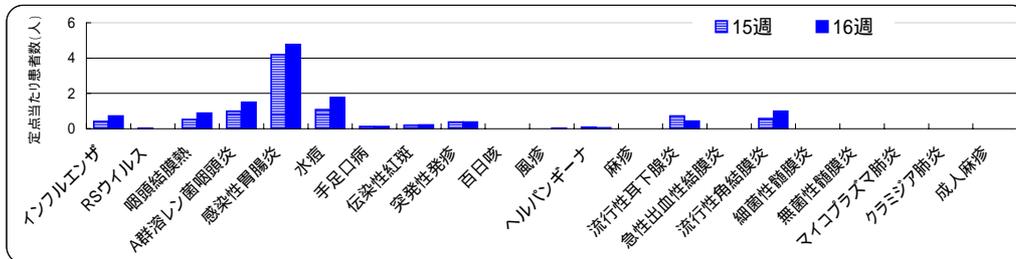
今週の感染症発生動向

咽頭結膜熱の発生は大津および高島保健所管内で増加傾向

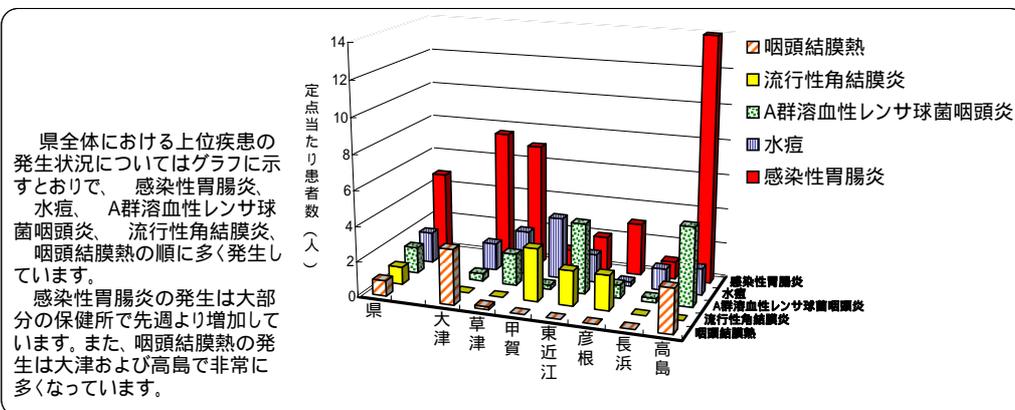
定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は、先週(4月10日～4月16日)の報告数より多くなっており、増加した疾患はインフルエンザ、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、水痘、流行性角結膜炎等で、減少した疾患は流行性耳下腺炎、ヘルパンギーナおよびRSウイルス感染症です(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

今週は、全数把握対象である三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症1名および四類感染のA型肝炎1名の届出がありました。

定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



上位5疾患の保健所管内別発生状況(定点把握対象五類感染症、第16週、定点当たり患者数)



感染症のミニ知識 ～咽頭結膜熱～

咽頭結膜熱はアデノウイルスに感染することにより起こる小児の急性ウイルス性感染症です。感染症発生動向調査における罹患年齢は5歳以下が約6割を占めています。咽頭結膜熱の流行を起こすアデノウイルスの血清型は、大部分が3型、4型、7型、2型、11型および14型です。特に、7型の場合は肺炎などの重篤な症状となることもあります。

また、プールでの感染も多くみられるためプール熱とも呼ばれています。

- ・**感染様式:**飛沫感染、接触感染ですが、プールでは結膜からの感染や経口的な感染もあります。
- ・**潜伏期間:**5～7日
- ・**臨床症状:**発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、咽頭痛、結膜充血、流涙、眼脂等
- ・**治療:**対症療法(脱水症状を防ぐなど)が中心です。
- ・**予防:**感染者との密接な接触を避ける、うがいや手指の消毒を励行する、患者のタオルなどを共用しない、水泳前後のシャワーを十分にする、プールの水の消毒などが大切です。
- ・**学校保健法における取り扱い:**

学校保健法においては、第二種伝染病に位置づけられており、主な症状がなくなってから2日を経過するまでは出席停止とされています。しかし、病状により伝染の恐れがないと認められた場合は、この限りではありません。

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (16週)	累積報告数		平成17年報告数	
			滋賀 (16週)	全国 (16週)	滋賀	全国 ^(*)
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
二類感染症	細菌性赤痢	0	^{(*)2} 2	149	^{(*)3} 7	556
	腸チフス	0	0	25	0	50
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1	2	179	12	3,567
四類感染症	E型肝炎	0	0	23	0	40
	A型肝炎	1	1	127	1	168
	オウム病	0	0	6	1	34
	デング熱	0	0	12	1	73
	マラリア	0	0	10	0	66
	レジオネラ症	0	3	102	3	276
五類感染症	アメーバ赤痢	0	3	188	5	680
	ウイルス性肝炎	0	0	71	2	277
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	57	2	147
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	3	35	0	60
	後天性免疫不全症候群	0	2	348	7	1,161
	ジアルジア症	0	0	20	0	81
	梅毒	0	2	172	0	555
	破傷風	0	0	17	0	114
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	19	2	65
	急性脳炎	0	1	68	2	180

*1: 平成17年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2: 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分1件を含みます。

*3: 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分3件を含みます。

全国における全数報告感染症の発生状況 - 第16週、4/17～4/23 -

一類感染症: 報告なし	四類感染症: レジオネラ症 3例	五類感染症: 後天性免疫不全症候群 12例
二類感染症: コレラ 2例	A型肝炎 4例	クロイツフェルト・ヤコブ病 1例
細菌性赤痢 5例	五類感染症: アメーバ赤痢 10例	バンコマイシン耐性
腸チフス 4例	ジアルジア症 1例	腸球菌感染症 1例
パラチフス 1例	破傷風 1例	ウイルス性肝炎 1例
三類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 35例	梅毒 10例	

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点*から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。*疾患により定点数は異なります。

(1) 疾病別・週別発生状況(第11週～16週、3/13～4/23)

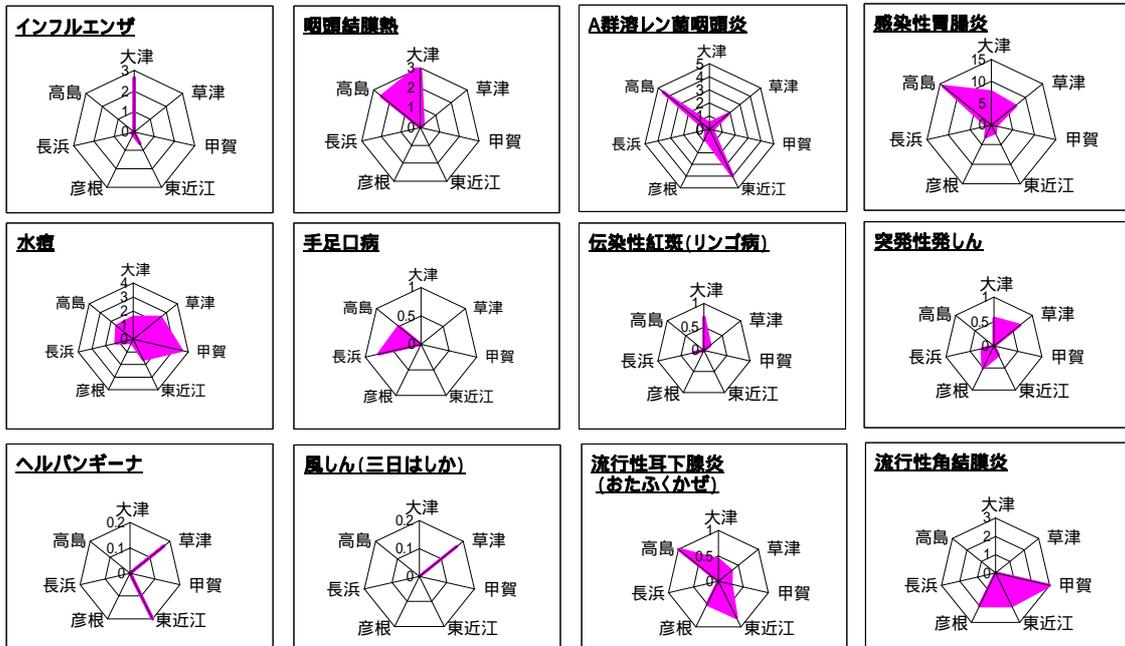
疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	11週		12週		13週		14週		15週		16週	
	(3/13～)	(3/20～)	(3/27～)	(4/3～)	(4/10～)	(4/17～)	12	13	14	15	16	
インフルエンザ	3.22	2.29	1.04	0.39	0.41	0.73						
RSウイルス感染症	0.03	0	0	0	0.03	0						
咽頭結膜熱	0.13	0.19	0.22	0.19	0.53	0.88						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.25	1.50	1.06	0.88	1.00	1.50						
感染性胃腸炎	6.38	4.56	4.38	4.63	4.19	4.78						
水痘	1.50	1.56	1.28	1.09	1.09	1.78						
手足口病	0.25	0.09	0.06	0.13	0.13	0.13						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.25	0.16	0.13	0.22	0.19	0.22						
突発性発しん	0.41	0.47	0.47	0.44	0.38	0.38						
百日咳	0	0	0	0	0	0						
風しん(三日はしか)	0	0.03	0	0	0	0.03						
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0.09	0.06						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0.03	0	0	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.59	0.44	0.69	0.44	0.72	0.44						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.29	0	0.14	0	0.57	1.00						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0	0	0.14	0	0						
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第16週、4/17~4/23)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況 (県全体)
	県	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
インフルエンザ	0.73	2.64	0	0	0.63	0.14	0.14	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.88	3.14	0.17	0	0	0	0	2.50	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	0.43	1.83	0.25	4.00	0.75	0.25	4.50	
感染性胃腸炎	4.78	7.57	7.00	1.00	2.00	3.00	1.00	14.00	
水痘	1.78	1.57	2.50	3.50	1.60	0.25	1.25	1.50	
手足口病	0.13	0	0	0	0	0	0.75	0.50	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.22	0.71	0.17	0	0	0	0.25	0	
突発性発しん	0.38	0.57	0.67	0	0.20	0.50	0.25	0	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0.03	0	0.17	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0.06	0	0.17	0	0.20	0	0	0	
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.44	0.43	0.33	0.25	0.80	0.50	0	1.00	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	1.00	0	0	3.00	2.00	2.00	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	

0 1 2 3 4 5
定点当たり患者数(人)

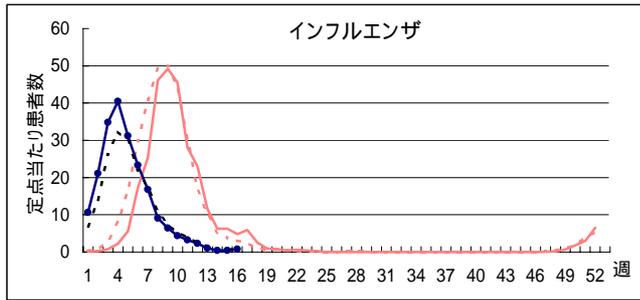
疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



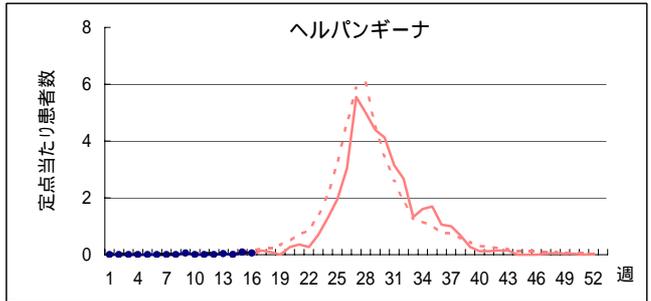
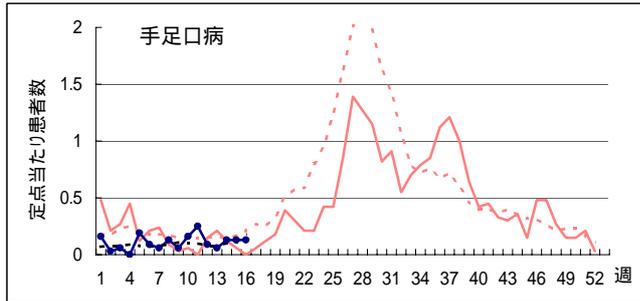
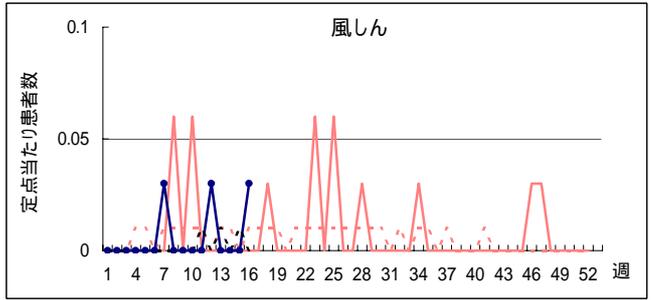
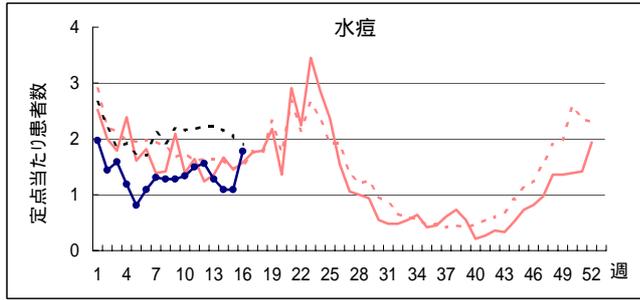
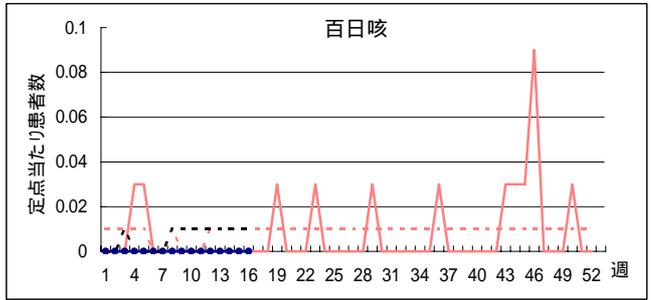
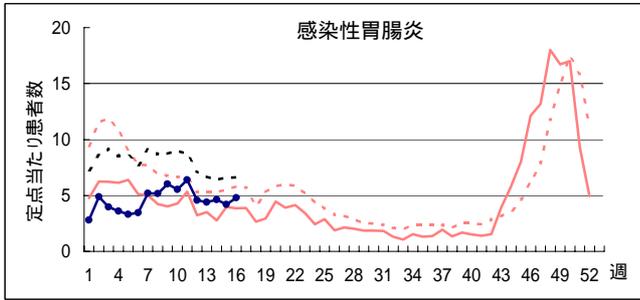
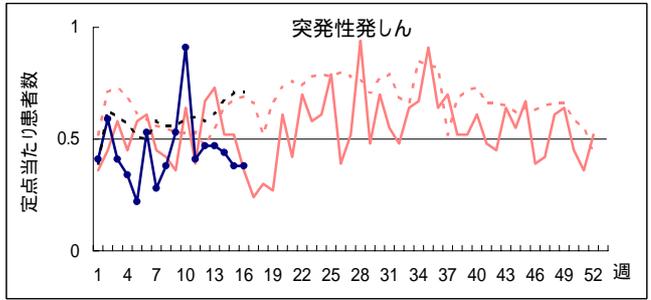
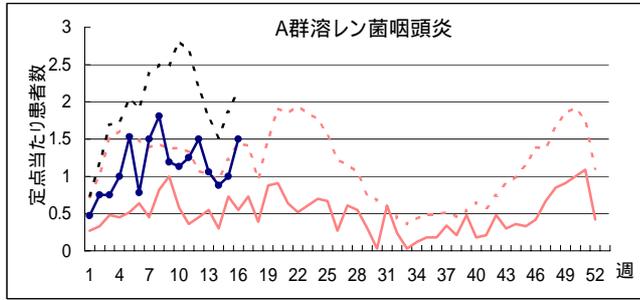
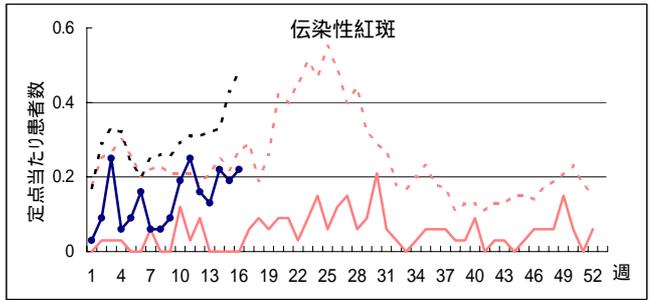
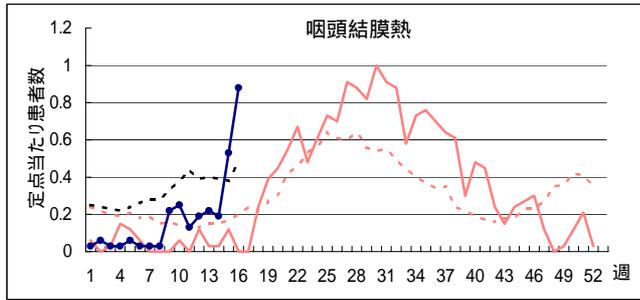
今週の発生状況：保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。

- インフルエンザ-----大津で先週より急増しています。また、県全体における年齢階級別の報告数は10~14歳で多くなっており、全体の約68%を占めています。
- 咽頭結膜熱-----大津および高島で非常に多くなっています。県全体における年齢階級別の報告数は1~9歳でほぼ均等に分布していますが、3歳でやや多くなっています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎---- 東近江および高島で非常に多くなっています。特に、東近江では先週に引き続き多い状態となっています。
- 感染性胃腸炎----- 大部分の保健所で先週より増加しています。特に、高島では先週に引き続き多い状態となり、定点当たり患者数は14.00となっています。
- 水痘-----草津および甲賀で先週よりかなり増加しています。
- 手足口病-----長浜および高島から報告されています。
- 伝染性紅斑-----大津、草津および長浜から報告されています。
- 突発性発しん-----県全体としては先週と変わりませんが、大津、東近江および長浜で先週よりやや多くなっています。
- ヘルパンギーナ-----先週と同様、草津および東近江から報告されています。
- 風しん -----草津から報告されています。
- 流行性耳下腺炎-----先週と同様、東近江および高島でやや多くなっています。
- 流行性角結膜炎-----甲賀および東近江で先週より増加しています。

疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第16週、H18.1.2～H18.4.23)



H17 〔 滋賀 ————
 全国
 H18 〔 滋賀 ●——●
 全国



疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第16週、H18.1.2～H18.4.23)

H17 { 滋賀 ————
全国 - - - - -

H18 { 滋賀 ●——●
全国

